

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0195700117), 法人名 (株式会社 メディケアサービス北海道), 事業所名 (グループホームはるか), 所在地 (岩見沢市8条東6丁目1番地1), 自己評価作成日 (平成29年1月10日), 評価結果市町村受理日 (平成29年3月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①岩見沢メディカルモール内の各クリニック・薬局が隣接し、必要に応じて各医療機関を受診頂けます。
②利用者様の認知症状の進行を緩和し、安心して日常生活を送ることが出来るよう、利用者様の心身の状態を踏まえて適切にサービスを実施します。
③利用者様一人ひとりの人格、名誉及びプライバシーを最大限尊重し、利用者様それぞれの役割を持って、家庭的な環境の下で日常生活を送ることが出来るよう配慮してサービスを実施します。
④サービスの実施に当たっては、市内の保健・医療・福祉サービス事業者、地域住民又は、ボランティア活動等との連携及び協力を行うなど、地域との交流に努めます。
⑤建物では、停電時でも空調や電気が使える電源自立型空調を設置しており、いつ起こるか分からない非常災害時において、停電が起きてもガスの力で運転し、発生した電力で空調・照明・通信機器などの使用を継続可能となります。非常災害時の緊急避難先としても利用可能となります。又、各居室・居間にはナノイー発生装置を取り付け、臭いやアレレル物質の活動抑制、水素水を導入し、利用者様の健康管理を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0195700117-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイム401), 訪問調査日 (平成29年2月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年4月に市の中心部に開設した2ユニットの事業所である。開設1年に満たない事業所だが、隣接の同一法人のデイサービスや居宅支援事業所等と密接な連携、行政との良好な協働関係、医療面でも系列医療機関が協力医である事など、運営の基盤となる協力体制が充実している。新築の建物内は、ゆとりある広さで、テラスからの陽射しも明るく、最新設備を備えた清潔感のある快適な住環境である。職員は、利用者にとって居心地良いホームになるよう、利用者一人ひとりの理解を深めながら日々の暮らしの安定と、笑顔で楽しく、閉じこもらない日常を積極的に支援している。敬老会やクリスマス会は利用者と家族と一緒に楽しい時を過ごし、遠出の外出行事や市内・近郊の公園巡り、外食も頻繁に出掛け、また、系列事業所合同の夏祭りや地域の人達と交流するなど、利用者の楽しみと気分転換、機能維持につながる活動面の充実に力を入れている。管理者は、介護施設勤務の豊富な経験から利用者支援の基本的な方向付けをして、職員と一体になって明るくゆとりとしたケアで、安心、安全な住まい作りに取り組んでおり、今後の発展が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing staff and user satisfaction metrics.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット毎に掲示している。	事業所の介護理念は、ホーム内の要所に掲示すると共に、管理者は申し送り時や会議等で、理念に基づいたサービスの提供について話している。各ユニットの職員全員で年間目標を作成し、その実践に取り組んでいる。	開設して1年に満たないので、会議等で事業所の理念の意味合いや目指す方向性を掘り下げて話し合い、今後のケアサービスの実践に向け、さらに職員全員で理念の理解、浸透を図る事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設1年目でまだ地域とのつながりは少ないが、行事等を通じて、地域との連携を図っている。	隣接の系列のデイサービスや高齢者住宅と合同の夏祭りには多くの住民が参加し、利用者とはふれ合う機会が持たれている。また、幼稚園児の訪問や近隣住民からお裾分けがあるなど、地域の方々との交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状ではまだ地域へ向けた発信は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を取り込み、運営に活かしている。また、地域の参加がまだないので、関係構築を行っている。	会議は発足から2か月毎に開催し、市の担当者や包括支援センター職員、利用者、家族の参加がある。活動面や利用者状況など事業所の現状を詳しく報告し、今後の運営やサービスに向けて意見交換を行っている。	会議には、地域関係者の参加が得られておらず、機会あるごとに事業所の啓発に努め、地域住民や知見者をメンバーに迎える事を期待する。また、議事録の記載法を工夫し、玄関等の掲示や全家族への送付で会議内容を知らせ、事業所の理解を深める取り組みを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、行事等を通じて連絡・連携を行っている。	運営推進会議の中で、市の担当職員や包括支援センター職員から、助言や情報提供を得ている。毎月の事業所報告、事故報告や介護認定申請等で連絡し相談している。また、事業所の行事や避難訓練にも行政の参加があり、様々な面で良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設後より身体拘束は行っていない。	道主催の身体拘束、虐待防止に関する研修や伝達研修、年2回の内部研修で身体拘束廃止について学ぶ機会を設けている。マニュアルや資料を用意し、言葉掛けなどグレーゾーンの対応は会議で検討している。拘束の無いケアを実践しており、玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、研修資料は全職員が確認している。虐待を行っている状況はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修機会に参加し、参加した資料は全職員が確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時における契約時に、管理者が確認を行っている。入居後も同様に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等により実施している。	家族の面会や電話の際に、本人の様子を伝えながら要望等を聞き取り、改善できるように努めている。暮らしの様子や健康面は個別の健康管理記録に纏めて、毎月の通信と同封して詳しく報告し、家族との関係作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを実施し、業務内容の変更等を行っている。	会議や申し送り、業務を通して意見交換を行い、意見や提案を積極的に取り入れ、業務の改善に活かしている。管理者は、運営やサービス全般を把握し、今年度は職員が更にケアに専念できるよう随時助言し、ストレス面でも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングを実施し、確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を呼びかけ参加している。経験がなく、資格を持っていない職員については、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修への参加は、ケア・カフェなどへ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時からご利用者様本人が生活に早く慣れていけるように、コミュニケーションを図り、関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に家族に確認を行っている。利用状況についても伝え、意向確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に家事などを行って、行動を共にする様にし、一方的にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは行事等への参加を促して、協力を得られるように行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等で対応している。また家族が対応している。対応することに特に制限は設けていない。	家族の同行で一時帰宅や馴染みの美容室へ行く利用者もいる。友人や知人の来訪は、居間や居室で自由に過ごせるように配慮している。祭りや初詣、どんど焼きに行くなど、今までの関係性や生活習慣が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク等を通じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族の必要な書類のやり取り等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から希望や意向を拾い上げている。	入居まない利用者も多く、入居時基本情報に加え、家族からの情報を随時聞くようにしている。関わりの中で、何気ない言葉や表情、行動など本人の全体からの情報をできる限り受け留め、意向や希望を理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネや家族から確認している。入居後においても生活歴の確認を家族に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを実施し対応している。	毎月の会議の中で、職員間で利用者の現状を共有している。入居後安定した段階で、3ヵ月毎に課題分析と評価を行い、計画作成担当者を中心に介護計画を見直し、新たな計画を作成している。状態変化時には随時見直しをして、現状に即して計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はしているが、まだ足りない事があり、今後の取り組みとして行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最大限活用できる外部サービスの導入に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム外への活動を出来るようにはなっていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も基本的には、今までのかかりつけ医を受診している。	協力医療機関に変更する利用者もいるが、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援しており、管理者が通院支援をしている。医療連携体制により、月2回の看護師が訪問し、日常の健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護のスタッフに来訪時に確認をしている。また、訪問看護スタッフからの情報をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中の面会や足りない物を届けるなどの対応を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明を行い、同意して頂いている。	契約時に、重度化や終末期ケアに関する指針を基に、利用者と家族に事業所の支援を説明し、同意を得ている。事業所では、重度化や終末期ケアを見据えた体制構築に向け、往診が可能な医師と協力体制を整えており、職員の意識統一や技術の向上に取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救急救命講習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しているが、対応については、今後も課題としてある。	今年度は、4月と10月に消防署の指導の下、昼・夜を想定した避難訓練を実施している。非常用備蓄品は、隣接の系列事業所で保管している。停電対策として電源自立型空調設備を導入している。	事業所の非常災害時総合対策計画を作成しているため、当地で考えられる自然災害を含め、全職員で対応策を共有し、訓練に繋げる取り組みや、避難場所の確認や家族への周知など、具体的な実践に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排尿や排便については、ホーム内で他の言葉に置き換えて対応している。	利用者の呼び掛けは「さん」付けとし、本人の希望の呼び方をする場合もあるが、本人にも周囲にも不快感を持たれぬ対応に努めている。個人記録等は、事務室で保管、管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認を取って行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくそうように対応は心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に応じて対応している。	利用者のできる事を引出し、楽しく食事作業をしている。形態や量、塩分等は個別に対応し、和やかに食事をしている。好みや食べたい物を聞き取り、豊富なメニューで家庭的な料理を提供し、行事食も利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様ひとりひとりの状況を把握し対応を行っている。記録は一覧にして経過を確認出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居当初は紙パンツを使用していた利用者様が、対応により布パンツになったなど、なるべく自己で出来る様に対応している。	全員の排泄状況を確認し、声掛けや誘導など個別に応じ、自立した排泄を支援している。介助時は、特にプライドや羞恥心に気を配り、紙パンツから布の下着に変更した利用者もおり、状況を見極めながら、不安なく気持ちよく過ごせるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、主治医との連携で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では、曜日・時間帯を決めた中で対応している。	午後の時間帯で週2回の入浴だが、タイミングや状況に応じて柔軟に対応している。拒否や不安がある場合は、足浴などから始め本人の気持ちを察しながら、焦らせずに対応している。温泉ツアーは利用者に好評で、伸び伸びと気持ち良い入浴も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員がいつでも確認出来るようにしている。又、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏場などは近所の散歩を行ったり対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等を通じて行っている。	季節の良い時は、職員と食材の買い出しや、散歩、コンビニの買い物も日常的に出掛けている。ユニット毎に月2、3回は外出し、遠出の行事や海水浴、祭り見物や果物狩り、四季折々の花観賞と多彩である。また、利用者が楽しみにしている外食も頻繁であり、閉じこもらず気分転換や五感刺激の機会を積極的に提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に入居時にお金を置いていく事の理解をしてもらい、利用者様毎に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	極力支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくシンプルにしてなるようにしている。窓などは大きく光はよく入って、明るい雰囲気はある。	平屋作りの内部は、両ユニットが左右対称に配置され、気軽に行き来ができる構造である。共用空間は広く、前面のテラスからの陽射しも明るく開放感がある。手作りカレンダーや利用者の習字やぬり絵などの力作、雑壇など季節感ある装飾を飾り、食卓やソファもゆったりと配置されていて、居心地の良い居住環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士でお話をしたり、自然に出来るように配慮はしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人のなじみのあるものを持参して頂けるようにしており、家族も対応して頂いています。	居室には、分りやすく表札を掛けている。利用者が個々に筆筒やソファ、仏壇等を自由に持ち込み、壁には手作り品や好みのカレンダーなどを掲示している。クローゼットに衣類や日用雑貨が収納でき、すっきりと安心して過ごせるその人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	まだ足りないところがあるので、今後対応する。		